

暁斎

きょうさい

先駆の絵師魂！  
父娘で挑んだ画の真髄

暁翠伝

きょうすい

The Kawanabe Kyosai Memorial Museum Ancestral Collection: Kyosai and Kyosui

*The Soul of the Artist as Pioneered by Father and Daughter*

- Bilingual (Japanese/English) Exhibition -

記念講演会

# 「画家と子孫の眼差し ～ 私見・絵師の魂 対談：山口晃／河鍋楠美」

2018年6月3日(日) 午後2時から1時間程度(開場午後1時30分)

会場：東京富士美術館／本館 ミュージアムシアター

料金：無料(ただし、展覧会の入場料金が必要)

申込：不要。定員200名

※当日正午より、公演会場入口にて入場整理券を配布(お一人様一枚配布)

講師：山口晃(画家)、河鍋楠美(河鍋暁斎記念美術館 館長)

日本の伝統的絵画の様式を用い、油絵技法を使って描く作風で知られ、幅広く活躍する画家・山口晃氏。幕末・明治期に新しい画風・画題に挑戦し、広く海外まで知られた暁斎とその画業を継いだ暁翠の人と作品について、暁斎の曾孫・河鍋楠美氏と対談していただきます。

講師プロフィール：

山口晃 (YAMAGUCHI Akira)

1969年東京生まれ、群馬県桐生市に育つ。96年東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修士課程修了。2001年第4回岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞、2013年自著『ヘンな日本美術史』(祥伝社)で第12回小林秀雄賞受賞。17年桐生市初の芸術大使に就任。

日本の伝統的絵画の様式を用い、油絵という技法を使って描かれる作風が特徴。都市鳥瞰図・合戦図などの絵画のみならず立体、漫画、インスタレーションなど表現方法は多岐にわたる。

主な展覧会に、11年「Bye Bye Kitty!!!」展(ジャパンソサエティ、NY)、12年個展「望郷 TOKIORE(I)MIX」(銀座メゾンエルメス フォーラム、東京)、13年「山口晃展 画業ほぼ総覧—お絵描きから現在まで」(群馬県立館林美術館)、15年「山口晃展 前に下がる 下を仰ぐ」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城)、16年「山口晃展 馬鑑」(馬の博物館、神奈川)等。

成田国際空港や大分駅のパブリックアート、富士山世界遺産センターシンボル絵画を手がける一方、新聞小説や書籍の挿絵・装画を担当するなど幅広い制作活動を展開。

近著に『すゞしろ日記 参』(羽鳥書店)、『山口晃 大画面作品集』(青幻舎)、『探検!東京国立博物館』(藤森照信・山口晃 共著)(淡交社)等。

河鍋楠美 (KAWANABE Kusumi)

公益財団法人河鍋暁斎記念美術館理事長・館長。暁斎の曾孫。1931年、東京生まれ。

強制疎開で1944年より蕨市に移転して以来、現在も在住。東京女子医科大学卒業後、東京大学にて医学博士取得。1964年、蕨眼科を開業(院長)。1977年、暁斎と一門を顕彰するための「暁斎記念館」を開館(1986年に財団法人の認可を受けて「河鍋暁斎記念美術館」と改称。2012年に公益財団法人へ移行)。現在までに暁斎単独の展覧会を31回開催。1993～94年には大英博物館(ロンドン)での「画鬼：河鍋暁斎の芸術」展、2008年には京都国立博物館で「絵画の冒険者 暁斎 近代へ架ける橋」展など大きな回顧展も開催。また、研究雑誌『暁斎』(124号続刊中)をはじめ、複製本や画集を多数出版。埼玉県文化ともしび賞、浮世絵学会・内山賞(現・国際浮世絵学会)、蕨市けやき文化賞、厚生援護功労賞(東京都知事)等、受賞。

著書に、狩野博幸・河鍋楠美共著『反骨の画家 河鍋暁斎』(新潮社)、河鍋楠美監修『TJMOOK 「画鬼」河鍋暁斎』(宝島社)、『河鍋暁斎・暁翠伝』(角川書店)がある。



撮影：曾我部洋平

